

『第1回 五感塾ネットワーク・フォーラムの報告』



制作：世話人会
2009年12月

本報告書の目的

長野県小布施町で開催された第1回 五感塾ネットワーク・フォーラム〔2009年8月1~2(3)日〕には、企業・行政・地域などから120名を超える方々にお集まりいただきました。本報告書は、第1回 五感塾ネットワーク・フォーラムの熱気を伝え、10年にわたって試行錯誤してきた五感塾という「人づくりの方法」を分かち合うことを目的に、制作する運びとなりました。さまざまな地域と主催者によって、五感塾が日本各地で開催されることを期待しております。

なお、パワーポイントという形式につきましては、皆さんが各々の持ち場で「五感塾とは？」を説明しやすくできればと考えました。ますます「ネットワーク」が広がることを願っております。

世話人会一同(開催時の所属):

事務局長	上條正文	イオンリテール労働組合 事業広報・政治担当
事務局	石原愛子	株式会社再生日本21 志塾担当
	角谷由美子	イオンリテール労働組合 事業広報・政治担当
	木下豊	文屋／小布施町 地域プロデューサー
	鈴木崇之	帝人グループ「私がやる！」プロジェクト 事務局
	中島敏子	編集者
	宮本吉寿	志塾3期生／長野県職員



事務局長
上條 正文

本報告書の内容

1. 五感塾の背景や経緯
2. 五感塾とは
3. 第1回 五感塾ネットワーク・フォーラムの概要

五感塾の背景にある問題意識



人と情報の研究所
代表 北村三郎

<http://www2.shizuokanet.ne.jp/sabu/>

■「仕事力」と「人間力」

私はいすゞ自動車に35年間、勤めました。その間の大部分を教育担当として、新入社員教育、中堅社員教育、部課長教育などを手がけてきました。定年退職してから現在までの12年間、ご縁があったいくつかの企業、労働組合などで「意識改革研修」などのお手伝いをしております。

私の経験では、「企業人教育」のいちばんの目標は仕事に必要な知識、技術、技能を習得させることであり、マネジメント手法、コミュニケーションスキル、リーダーシップを含めた「仕事力」の向上であったと思います。一方、**仕事力の土台である「人間力」の教育**が取り残されてきたのではないかと考えています。

その理由として、長い間、企業経営が人間力よりは仕事力を求める傾向があったこと、人間力は目に見えないので研修プログラムの開発が難しかったこと、人間力の教育効果が企業経営の向上に結びつくという検証ができなかったことなどが考えられます。

「人間力」という言葉を明確に定義するのは難しいのですが、「知性(左脳)と感性(右脳)」「知育(あたま)、徳育(こころ)、体育(からだ)」「情(情緒)と理(合理)」のバランスがいい人は人間力が優れていると、私は思います。人間力を磨いている人は、学ぶ意欲にあふれ、いつも朗らかで人を元気づけるパワーが旺盛です。その人の周囲には、いい仲間が集まってくるような空気があります。

人間力は、特別な教育を受けなくても、誰でも持っているものだと思います。その人間力が、企業では仕事力の陰に隠れてしまっかなか表出できなくなっています。

このような危機感と問題意識をもつ労働組合、企業の方々と試行してきたのが、人間力を向上させるための「五感塾」という学習方法です。

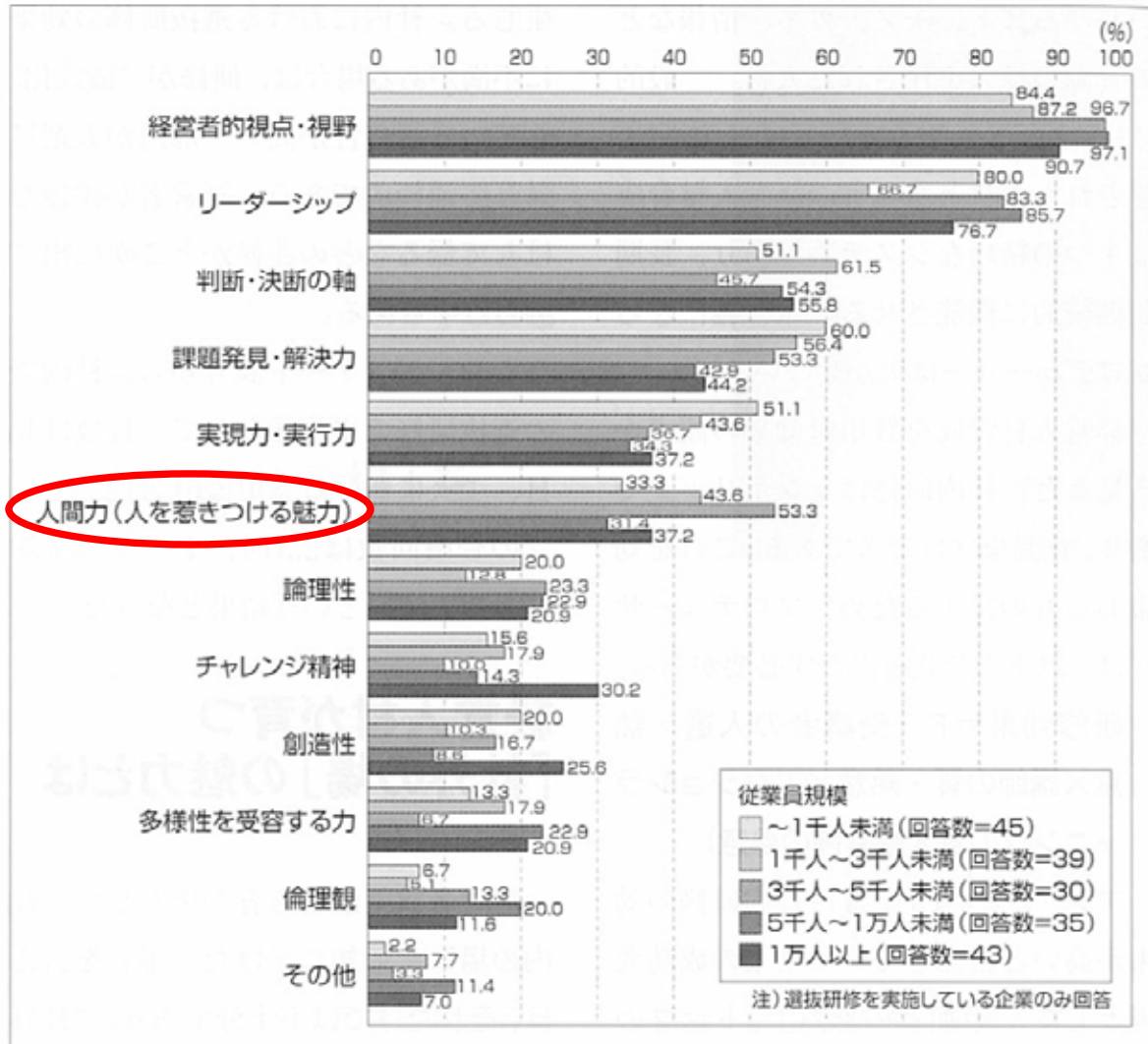
「人間力」の潮流

大規模企業に見られる特長として「**チャレンジ精神**」「**創造性**」「**多様性を受容する力**」の3項目への期待値が小規模企業に比べて高いことが挙げられる。大組織が陥りがちなさまざまな硬直化を打破する人材への期待は大きい。

また近年は、「**人間力(人を惹きつける魅力)**」を研修テーマに据える企業が増えている。これは経営者の役割として述べた「**人間と人間社会への洞察力**」を磨くことにもつながっている。人材の価値を短期・数値志向に振り過ぎた揺り戻しの表れであろう。

さらに本調査では、選抜研修の実施形態についても尋ねており、以後の論点に関するので紹介する。「**社内研修と外部派遣の組み合わせ**」が42.2%、「**社内研修のみ**」が39.1%、「**外部派遣のみ**」が16.1%という結果であった。

■選抜研修で向上を期待している項目(5つまで選択)



出所:日本能率協会「経営人材の育成に関する調査報告書」より

日本国内の五感塾開催地(一部)

■これまでの開催実績

実施年	開催地	主催者	地域プロデューサー
1998年	アメリカンテネシー州チャタヌーガ	イオン労組	運輸関係団体の副社長 ジム・フライアソンさん
2003年	高知県四万十川	イオン労組	四万十楽舎楽長 山下正寿さんほか
	長野県上田市(旧武石村)	イオン労組	信州せいしゅん村代表 小林一郎さん
2004年	大分県臼杵市	イオン労組	大分県庁由布活性化担当 若林純一さん
2005年	沖縄県	イオン労組	沖縄国際大学教授 比嘉堅さん
2006年	長野県小布施町	イオン労組	文屋代表 木下豊さん
2007年	バン格拉デシュ	再生日本21	国際エンゼル協会代表理事 東村真理子さん
	兵庫県伊丹市		
	新潟県佐渡島	イオン労組	「夢里仙洞」ジャーナリスト 加藤廣文さん
	愛知県岡崎市	再生日本21	志葉会 辻本桂子さん
	鹿児島県奄美大島	イオン労組	松下政経塾 安田壮平さん
2008年	静岡県伊東市	再生日本21	伊東掃除に学ぶ会 代表世話人 白鳥宏明さん
	徳島県徳島市	帝人グループ	松下政経塾 中西祐介さん
	島根県海士町	イオン労組	海士町教育委員会・人間力推進プロジェクト 岩本悠さん
	山形県米沢市	帝人グループ	社団法人米沢工業会 山崎洋一郎さん
	鹿児島県奄美大島	新日鐵化学	奄美地域交流プロデューサー 安田壮平さん
2009年 (8月まで)	新潟県佐渡島	イオン労組	「夢里仙洞」ジャーナリスト 加藤廣文さん
	静岡県伊東市	再生日本21	伊東掃除に学ぶ会 代表世話人 白鳥宏明さん
	鹿児島県奄美大島	イオン労組	松下政経塾 安田壮平さん
	長野県小布施町・松代町	再生日本21	文屋代表 木下豊さん／再生日本21「志塾」3期生 宮本吉寿さん

本報告書の内容

1. 五感塾の背景や経緯
- 2. 五感塾とは**
3. 第1回 五感塾ネットワーク・フォーラムの概要

五感塾とは

五感塾とは、現地・現物の現実に五感でふれる体験を参加者同士や地域の協力者と共有する中で、気づく力・感じる力を高め、学び上手になることによって、人間力を磨く研修です。

五感塾の7つの特長(場の作り方)

企業人教育の
「常識」の逆転

- 1. 脱教室:**
教室を飛び出し、現場・現物から学ぶ
- 2. 一隅を照らす人:**
「一隅を照らす」生き方をしている志高い人物や、その地域の文化から学ぶ
- 3. 塾長がいない塾:**
自らの学びを自ら掴むため、主催者は「これを学べ」という意図は持たない
- 4. 相互乗入と切磋琢磨:**
参加者は老若男女で多様性が高く、さらに外部組織や異業種と相互乗り入れする
- 5. 地域プロデューサー:**
現地の地域プロデューサーがその人脈を駆使し、主催者と相談しながら研修プログラムを練り上げる
- 6. 準備・実行・後始末:**
参加者は、可能な限り、研修プログラムの準備・実行・後始末に参画する
- 7. 割り勘・明朗会計:**
主催者は利益を出すことを目的にせず、割り勘・明朗会計とする

五感塾で大事にしたいこと

1. 3つの「最低限のマナー」を実践する:

- 1) 挨拶: 明るく元気に気持ちよく
- 2) 傾聴: 人の話を聴く姿勢を正す
- 3) 清掃: 来訪したとき以上に美しくして帰る

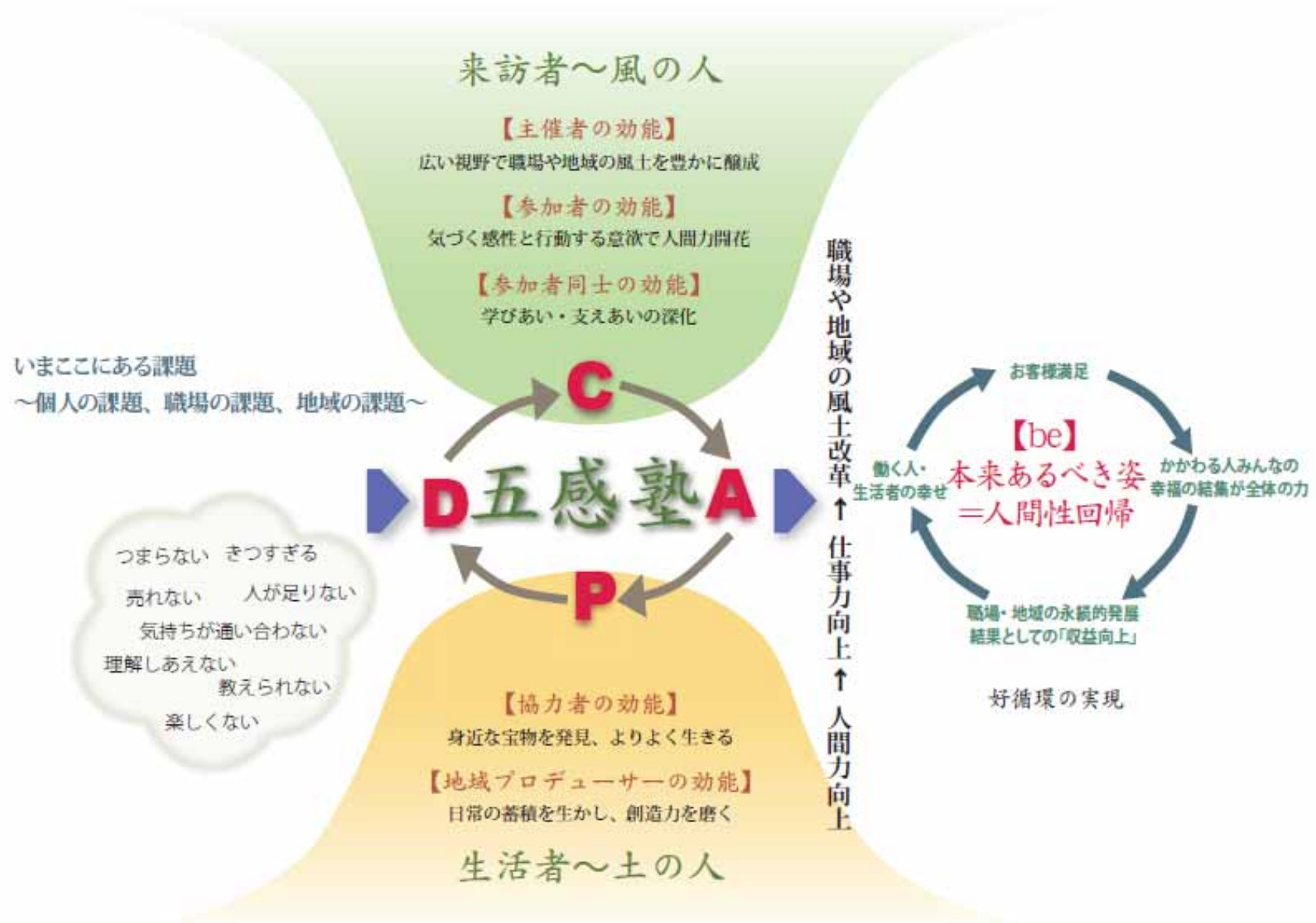
2. 積極的に人に関わる:

心がつながる方程式: シェアリング = 自己開示* + フィードバック**

* 自己開示: ありのままの自分の、内なる思いを発信すること

** フィードバック: 相手に感想や印象を伝えること

五感塾とは：ビジュアル



「人間力」開花のイメージ

～ 主催者が期待し得る、参加者の「変化」の数々 ～

- 「自分もやるゾ！」という気持ちが高まる(志や夢)
- 「自分はひとりじゃない」という気持ちが高まる(孤独に耐える力)
- 愚痴・不平不満・評論家で終わらない(すべては自分次第と思える力)
- 足下の小さなことから着手するようになる(実践力)
- コツコツやろうという意識が高まる(継続力)
- 自分を客観的に見る力がつく(自己認識力)
- 自分の思いを周囲に向けて表現するようになる(発信力)
- 周囲の意見に耳を傾けるようになる(傾聴力)
- 自分をさらけ出す力がつく(自己開示力)
- 多様な考え方や価値観を受け入れられるようになる(包容力)
- 「違い」だけでなく「共通点」を見ることが出来る(共感力)
- 組織内のキーパーソンを巻き込むアクションができる(突破力)
- 出会いを大切にし、組織内外のネットワークとつながる(人脈力)
- 「おかげさま」意識が高まる(感謝する力)
- 「お互いさま」意識が高まる(協働する力)
- 「もったいない」意識が固まる(エコ実践力)
- 「自分はまだまだ」という意識が高まる(謙虚になる力)
- 「あらゆることから学ぼう」という意識が高まる(素直になる力)
- 周囲に心配りできるようになる(思いやり、おもてなし)
- 「ないものねだり」より「あるものいかし」の視点を持つ(戦略性)
- 先人の思いを受け継ぎ、後世に遺そうとする意識が高まる(伝承力)
- 短期的成果だけでなく長期的成果も見れる(バランスのいい成果を出す意識) などなど

五感塾参加者のシェアリングや感想文から

五感塾ネットワークとは

「五感塾」とは、

現地・現物の現実に五感でふれる体験を
参加者同士や地域の協力者と共有する中で、
気づく力・感じる力を高め、
学び上手になることによって、
人間力を磨く研修です。

そして、「五感塾」ネットワークとは、

五感塾という人づくりの「方法」を
自分たちで運営（準備・実行・後始末）したい
個人・職場・地域などが出入りする、
次の三つの機能を持った「つながり」です。

〔五感塾ネットワークの機能（役割）〕

1. 出会いの場づくり： 主催者と地域とのマッチング
2. 共有の場づくり： 情報受発信・教育・啓蒙活動
3. 協働の場づくり： 協力団体・組織とのネットワークづくり

五感塾ネットワークのビジョン

私たちが目指すものは、一隅を照らす生き方、一隅を照らす働き方。

「一隅を照らすもの、これ即ち国宝なり」

最澄(伝教大師)の言葉です。

自分の周りを、ほんの少しの範囲だけでもいい、明るく照らす。

「一燈照隅、万燈照国」

一隅を照らす人が、一人二人、一万人、全国民へと増えていけば、日本全体が、ついには世界全体が、明るく照らされるかも知れません。

この五感塾ネットワークは、
自らが一隅を照らす生き方や働き方を目指す人々が集い、
そして、「一隅を照らす人づくり」を目指す個人・職場・地域などを、
五感塾という「方法」を通じて支援するために生まれました。

五感塾ネットワークのイメージ



〔五感塾ネットワークの機能(役割)〕

1. **出会い**の場づくり: 主催者と地域とのマッチング
2. **共有**の場づくり: 情報受発信・教育・啓蒙活動
3. **協働**の場づくり: 協力団体・組織とのネットワークづくり

五感塾ネットワークの枠組み

組織主催型

地域主催型

目的(例)

※主催者により
具体的な目的は違う

人づくり(特にリーダー育成)を介した風土改革や活性化

ビジネス活性化(CSR含む)

地域活性化

組織活動活性化

行政活動活性化

人的ネットワークづくり

実現のための 方法

リーダー育成の場づくりを共有

成果

※主催者により
さらに具体的に
ねらう成果は違う

参加者の「人間力」が開花することによって、
人や組織に「変化」の数々が起こること。

本報告書の内容

1. 五感塾の背景や経緯
2. 五感塾とは
3. 第1回 五感塾ネットワーク・フォーラムの概要

第1回 五感塾ネットワーク・フォーラム

■ 第1日目のプログラム

8月1日(土)

場所: 小布施町 北斎ホール

9:00 受付開始

9:15 オリエンテーション

9:30 ●オープニング・メッセージ 会長: 北村三郎

9:45 ●基調講演『交流のまちづくり、第2ステージへ』 市村良三(小布施町長)

10:45 休憩

11:00 ●全体像を掴むためのセッション ～それぞれの五感塾ものがたり～

・労働組合の人づくり: 高橋泰彦(イオンテール労働組合 中央執行委員長)

・企業の人づくり: 鈴木崇之(帝人グループ「私がやる!」プロジェクト 事務局)

・私塾の人づくり: 石原愛子(株式会社再生日本21 志塾担当)

12:30 昼食

13:30 ●より深くわかるワークショップ° ～みんなが主役になれる、逆転の発想～

・分科会形式で活発な意見交換のできる場をつくりましょう

16:30 ●特別講演「いのちの組織」 田口佳史(東洋と西洋の知の融合研究所 代表理事)

17:30 休憩(ロビーの小布施物産市でのお買い物や情報交換など)

17:45 ●桂米福師匠の古典落語一席(45分)

18:45 ●夕食・交流会(公民館講堂へ移動) さまざまな「つながり」の生まれる場をつくりましょう

～21:00 全員で片付け、そして各宿舎に移動 ※宿泊は事務局が準備します(浄光寺などに分宿)



田口佳史先生

第1回 五感塾ネットワーク・フォーラム

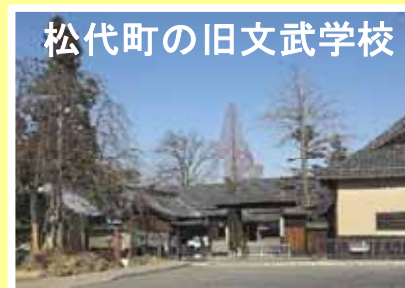
■第2日目のプログラム

8月2日(日)

流れ: 各宿泊場所 ~ 北斎ホール ~ ミニ五感塾 ~ 解散

5:30 ●五感アクティビティー(希望者は、以下3つから体験できます)

1. 清掃(各自宿泊施設の周囲で)
2. 特産小布施丸ナスの収穫(有料・現地回収／手配済みバスで移動)
3. おぶせ温泉にて朝風呂(有料・各自精算／各自タクシーで移動)



7:30 朝食(それぞれのお宿にて)

8:30 ●「信念(おもい)」の溢れる朝の集い @北斎ホールにて

- ・メッセージ『わたしの信念(おもい)』 新妻健治(イオングループ労働組合連合会長)
- ・「つながり」をもとにして、高まる「信念(おもい)」を交換するような場をつくりましょう

9:30 ●ナルホド！が浮かぶための「ミニ五感塾<その1>」 ※2班に分かれます

- 1班: 小布施ミニ五感塾(平松農場、ワイナリー、町立図書館まちとしょテラソ、オープンガーデンなど)
- 2班: 松代ミニ五感塾(松代大本営象山地下壕、高校生との交流会など)

14:30 解散: 1班は長野電鉄小布施駅にて14:20、2班はJR長野駅にて15:00

第1回 五感塾ネットワーク・フォーラム

■ 第2～3日目のプログラム(ミニ五感塾オプション・ツアー)

- 15:30 バスでJR長野駅東口出発、伊那食品工業(株)へ
- 18:00 伊那食品工業(株)「かんでんぱぱガーデン」着、軽く散策
- 18:30 ファインデイズホテル着
- 19:00 ●夕食・交流会 羅針盤(0265-78-2245 ホテルより徒歩10分)

8月3日(月) 流れ: 伊那食品 ~ 菓匠Shimizu ~ 伊那食品 ~ 解散

- 6:30 朝食
- 7:15 出発
- 7:45 ●伊那食品工業(株)の朝の清掃活動と朝礼を、社員の方々と一緒に体験
- 8:30 バスで出発
- 9:00 ●菓匠Shimizuを訪問(代表の清水紀光さん、パティシエ清水慎一さんのお話)
- 10:15 バスで出発
- 11:00 ●伊那食品工業(株)の塚越寛会長のお話
- 12:00 昼食(「かんでんぱぱガーデン」内のレストランにて)
- 12:45 ●伊那食品工業(株)の「かんでんぱぱガーデン」と工場を視察
- 13:30 解散、バスでJR塩尻駅へ45分(新宿・名古屋・長野へ特急列車に接続)



伊那食品 朝のラジオ体操



菓匠Shimizu

オリエンテーション

司会の角谷由美子氏(イオンリテール労働組合)が、10年かけて発展してきた五感塾の節目として、初めて「ネットワーク・フォーラム」を開催することを宣言。



【参考:「しおり」に記載した本フォーラムの目的】

本フォーラムでは、今後の五感塾の進化・発展・普及を第一の目的とします。そのために、五感塾のこれまでの実践を踏まえた具体的な成果と課題を共有いたします。その上で、五感塾の今後の可能性や将来像について活発な意見交換を行います。

また、これから2~3日間の学びが高まるための心構えとして、以下3点の確認がなされました:

- 『万事研修』 …… 日常のあらゆることから学ぶ姿勢、感謝の姿勢
- 『一期一会』 …… 出会いを縁に発展させるためのメンテナンス
- 『マナー』 …… 挨拶、話を聞く姿勢、来訪したとき以上に美しくして帰る

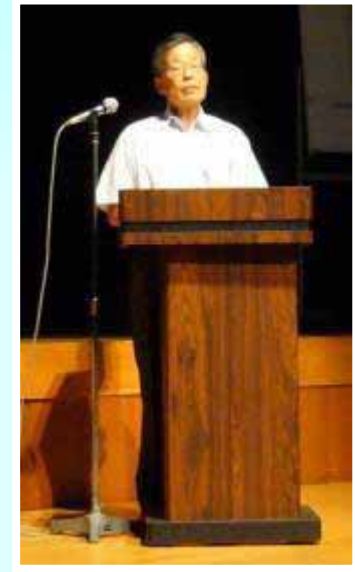
オープニング・メッセージ



会長の北村三郎氏(人と情報の研究所 代表)より、9頁の「7つの特長」に触れながら、五感塾の概要についての説明がなされました(15分)。

◆ 五感塾の目的(参加すると身につく3つの力):

1. 感じる力・気づく力:
体験や人との触れ合いの中で感性が磨かれ、気づく力が高まる。結果、情理兼ね備えるバランスを体得できる
2. 人間力:
仕事力のベースとなる人間力を育む。人間力が磨かれた人の特徴は3つほどあるのではないか:
 - ①自らの天分を活かしている
 - ②好きなこと、得意なことを、努力して、上手になって、人を喜ばせる
 - ③社会の中で使命を果たしている(使命とは“命の使い途”のこと)
3. 学び力・教わり力:
知識を身につけるのではなく、学び方や教わり方を身につければ、自分ひとりでも社会の中で成長することができる



基調講演：『交流のまちづくり、第2ステージへ』 市村良三 小布施町長（1）

1. 人口12,000人の町に年間120万人が訪れる秘訣

1) 町づくりの柱：

- ・3つの柱： インフラ、福祉、教育
- ・背景： 小布施町は長野県で最も小さな町
農作に適さない水質（町内を流れる松川は、Ph4で魚も住めない）
- ・戦略： 小布施ならではの付加価値を売る
- ・風土： 小さく繁栄した町の中に文人・文客を招いた歴史を含め、他所との「交流」が何百年と続いて行われている。



2) 交流の都市計画実現のための5つのポイント：

- ①果樹を中心とした美しい町づくり
- ②北斎館の建設（葛飾北斎ゆかりの地として人気スポットに）
- ③地場産業である農業を振興
- ④古い街並みを保存
- ⑤花の町づくり

これら5つのポイントが単独で、また複合して小布施の良さを発信している。そして、これらをサポートする「小布施人は小布施が好きで、来客が好き」というDNAが小布施にはある。「自分達が気持ち良い空間を創ることが、がお客様が来てくれることにつながる」という確信が、官と民のコラボレーションを実現している。

3) 町づくり全体を通しての志：

「志の高い人・町・企業が21世紀の日本をつくる」

基調講演：『交流のまちづくり、第2ステージへ』 市村良三 小布施町長（2）

2. 町づくりは第2ステージへ ～大事にしたい3つのビジョン～

1) 自立(自律):

三位一体改革の影響で、年平均2億6千万円の赤字が発生。収支改善努力から、現在はほぼ収支均衡。根底にあるのは、「皆で頑張ろう」「町が好き！」という気持ち。

2) 知の導入:

建築家やアーティスト、東京理科大学や信州大学他とのコラボレーションを実現。「小布施町づくり研究所の設立」モデルケースとして発信している。

3) 交流産業の振興:

稼ぐ自治体を目指す。
コンセプト「“観光”ではなく“交流”が発展を生む」。
施策として、友好市町村を増やし、賑わいを創出する。
たとえば、「安市」「映画祭」など、年間を通したイベントを実施。コラボレーション企画としては、「日米学生会議」「国際北斎会議」などを実施。

<参考:小布施町(おぶせまち)の概要>

面積:	19.08km ² (長野県の市町村で一番狭い)
標高:	354メートル(町役場)
人口:	11,714人(7月1日住基人口)
世帯数:	世帯数 3,520世帯(農家数約951戸)
山:	雁田山787m
気候:	内陸性気候で寒暖の差が激しく、最高気温は35度前後に達し、最低気温はマイナス11度前後にまで下がります
特産:	りんご・ブドウ・ナシ・ネクタリンなどの果樹、栗、小布施丸なす、栗菓子、日本酒、ワイン、小布施人

3. 最後に:

今後の方向性として、「重層性のある町」を目指す。

キーワード:「田舎の中のお洒落」「中心から農村のグランデーション」

基調講演：『交流のまちづくり、第2ステージへ』 市村良三 小布施町長（3）

■参加者の声(一部):

◆町長としての小布施の街づくりへの想いが伝わってきました。想いを持った人がしっかりと役割を担い、そこに多くの人に関与することで大きな推進力が生まれている様を知ることが出来ました。それは、多くの人意見をしっかりと取り入れて完成に至った図書館を見てよく分かりました。

◆小布施町には再度の訪問ですが、町づくり構想、協働の町づくりなど、さらに進化している姿を見せていただきました。町民が誇りを持って暮らす町、人が訪れてくる町には、文化が大切にされていることが不可欠です。農業立町・文化立町の基本構想を実現されてこられたことに敬意を表します。講演のおわりに語られた「小布施流の仕立て」「田舎の中のおしゃれ」「素朴さと洗練と」「中心部から農村部へのグラデーション」というコンセプトに、小布施町の心意気を感じるとともに、強く触発されるものがありました。

◆自分の街の特性を活かした事業計画であったり、都市計画、農村部活性化などいろんな取り組みをされて自社に取り入れることが出来るものはないか？と改めて考えます。町並修景事業では町民の意識向上・理解があつたりと自分たちの手で変えていこうという想いが伝わりました。

◆人口12000人の小さな町で120万人もの観光客を呼び寄せる、行政と住民による町づくりへの思い、郷土愛、誇りを感じ取れました。近年希薄になってきている「人」との繋がりの重要性を再認識させて頂きました。

◆まちづくりへの思い、感動しました。観光ではなく交流を視点に置いている点は、地域の方々との交流からも実感できました。



全体像を掴むためのセッション ～それぞれの五感塾ものがたり～ (1)

【ルポ:参加者】

■事例1. 労働組合の人づくり: イオンリテール労働組合

イオンリテール労働組合では、今から約10年前の1999年に「納得して楽しく働ける職場を目指した」中期ビジョンを掲げ、**組織としての人づくりの一環として、地域五感塾を積極的に展開**しています。その背景には、「地域あるいは五感を普段の生活ではあまり意識していない」、「社会との関わりが実感出来ない」といった組合員の声を受け、それを解消し、さらに個人としての感性を高め、組織の活性化に活かしていくためには、どのような形態、どのような方法が効果的であるか、試行錯誤しながら創りあげてきたと思われます。

イオンリテール労働組合は、**全国約84,000名の組合員**で構成している組織であり、流通が主体である労働者が多く存在していることを考えると、地域とのつながりは不可欠な要素です。「地域」には、その地域を良くしたいと行動している人がいることを、今回のフォーラムに参加して改めて認識しました。五感塾は、そのような人に焦点をあて、実際に会い、その人から話を聞き、学ぶことにより、「**地域や社会**」との**つながりを意識すること**に加え、「**感じる力や気づく力**」を養い、「**人間力**」を高めていく活動であると思います。そのような活動を組織として取り組んでいることは、組織運営、人材育成の観点から大変参考になりました。

私自身、昨年まで労働組合の役員を約10年間務めていました。イオンリテール労働組合とは規模が異なりますが、全都道府県に組合員が存在する組織であり、地域あるいは事業ごとに支部体制をひいて活動していました。**労働組合としての人づくり**は、重要事項と位置づけ取り組んでいましたが、全体としての施策や地域(支部)ごとの施策は、組織内での活動が主体であり、そのため組合員として必要な知識を深めることや職場環境を改善するために労働組合としてどのように関わるかといった内容が主要テーマでした。今振り返ると、これらの活動を通じて、参加者はどう思ったか、何を感じたか、本当の意味での人材育成の活動だったかは疑問の残るところです。研修などでも、「今回学んだことを、職場に持ち帰って実践しましょう。」などと言っていました。掛け声だけで終わっていたかもしれません。主催者側は研修などを行うこと、参加者側は研修などに参加することが目的となってしまうのではないかと思います。

共に学び、それぞれが気づき、自分自身で考え、自分ができることをする。また、自分ひとりでは出来ないこと、組織内だけではできないことを、色々なつながりの中で出来るようにしていく。このことが、「個」の成長であり、「組織」の活性化につながることを、イオンリテール労働組合の人づくりから学びました。自分自身の感性を高め、自分や自分の組織で出来ることを考え、実践していきたいと思えます。



高橋 泰彦 委員長

【参考】イオンリテール労働組合 活動コンセプト

イオンリテール労働組合は今回の学びも盛り込み、2009年11月より、次の10年を見据えた新ビジョンをスタートさせました。<以下は「ビジョン2020」の要因関係図になります。>

「ビジョン2020」

次の世代のために

自分らしく、自分だけじゃなく、
つながりをもって…

戦略：支部 目標共有 学び舎 戦略

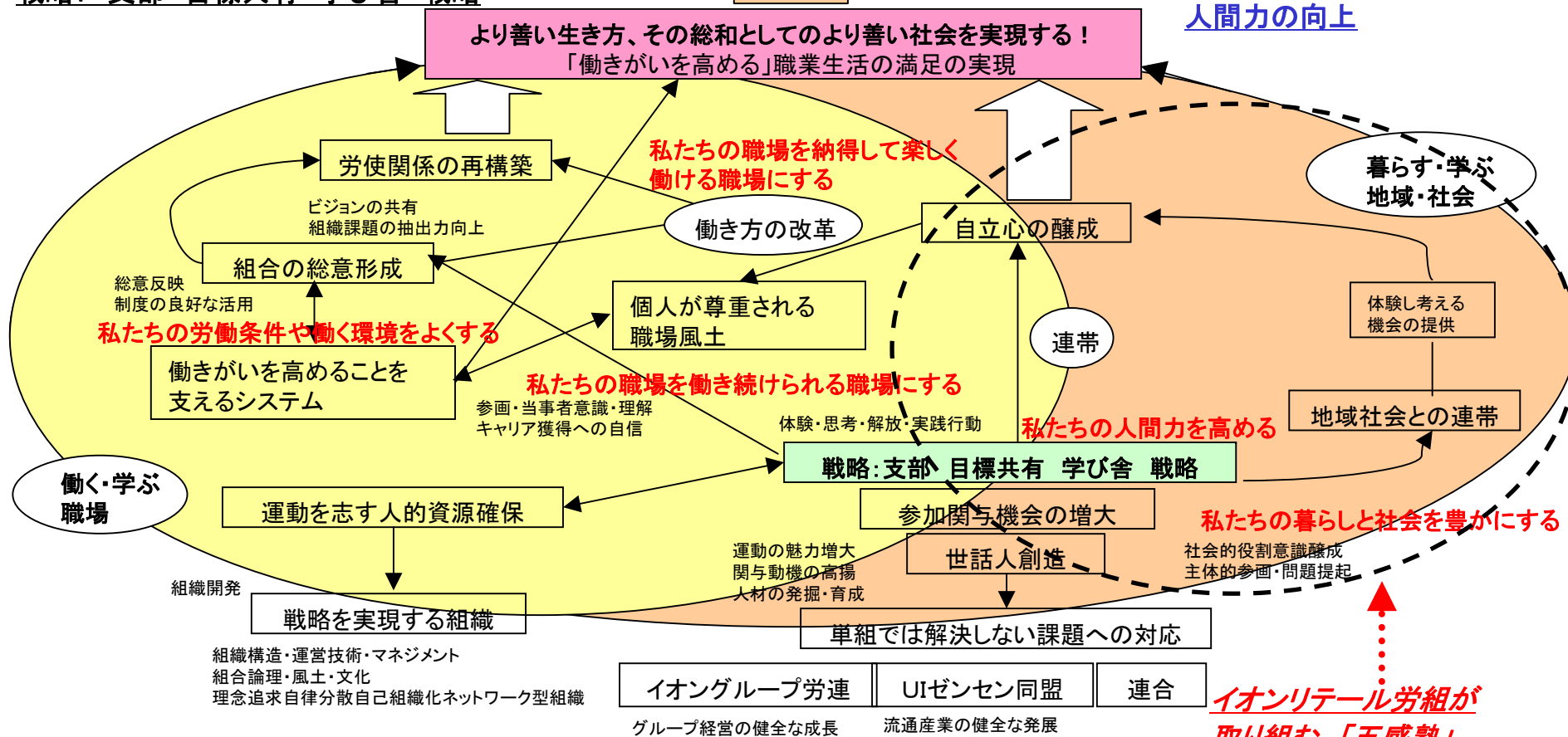
理念：労働運動を通じて
わたしたちの「幸せ」を実現する。

生きる

『中期政策』

働き方の改革
しくみの構築
地域交流・社会の問題解決
人間力の向上

より善い生き方、その総和としてのより善い社会を実現する！
「働きがいが高める」職業生活の満足の実現



イオンリテール労組が
取り組む「五感塾」
地域交流プログラムの領域

全体像を掴むためのセッション ～それぞれの五感塾ものがたり～ (2)

【ルポ:参加者】

事例1. 企業の人づくり: 帝人グループ「私がやる！」プロジェクト

演者の鈴木崇之氏は、帝人グループ内で「私がやる！」プロジェクトという組織風土改革を進めており、その一環として、リーダー育成を目的に五感塾に関わってきました。

セッションの冒頭、用意したスライドを表示させずに話し始めた鈴木氏は、リーダーは組織のメンバーにワクワクするようなムービーを見せてあげることが大切だと説きます。自身がリーダーをつとめる「私がやる！」プロジェクトでは「**行きたくて仕方ない会社**」というキャッチコピーを掲げて活動。五感塾には、日常の喜びを感じ、自分の右脳で感じ取ったムービーを身近なことばで語る場として期待を寄せ、多くの社員の方と一緒に参加してきたそうです。今回のフォーラムにも、帝人グループから参加した8人だけでなく、帝人グループ主催の米沢五感塾と阿波五感塾などに参加した方も会場にいました。

セッション後半では、当時の写真やスライドを使ってエピソードを紹介するなかで、ときおり会場にいる参加メンバーを指名して話をふる展開へ……。鈴木氏から突然指名されたにもかかわらず、当時の体験を皆さんがしっかりと自分の言葉で話す姿が印象的でした。

五感塾にメンバーが参加するようになってから、帝人グループの全国各地で「**いいことを、みんなで、楽しくやりたい**」という雰囲気少しずつ醸成されつつあるそうです。会場では、医薬品の自発的研究チーム、技能伝承のためのビデオ撮影プロジェクト、新入社員参加のトイレ掃除大会開催、ベルマーク集め、などの活動が紹介されていました。

鈴木氏が描く近未来のムービーは「**一人のリーダーが立ち上がると、不思議と仲間が増えていく**」というもの。今後も五感塾への参加を推進していく考えを語った鈴木さんのプレゼンは、次の言葉で締めくくられました。

「このような場づくりをする団体が増えることを祈っています」



鈴木 崇之氏

【参考】帝人「私がやる！」プロジェクト 活動コンセプト

問題解決ステップ	What	テーマ	自然発生型の組織風土改革
		提案の原点	いい会社なのに、なぜか、不平不満・あきらめ・他責・評論家的な言動・・・が多い
		ビジョン	「行きたくて仕方がない会社」をつくりたい人が、あちこちにいる
	Where	注目した問題点	“言いだしっぺ”が損をする／“出る杭”は打たれる
	Why	注目した原因	仮説1: 先頭を切る現場リーダーが不足 仮説2: 各現場リーダーを支える仲間がいない
How	当面の施策	草の根リーダーの発掘・支援・環境づくり	
アクション・プラン	中長期的ゴール (第2ステージ)		「わたしがやる！」から「みんなでやる！」へ 草の根リーダーが増加し、各リーダーに共感共鳴した仲間と一緒に動いている
	成果		顧客1: 不特定多数が、何らかの「変化」を感じている 顧客2: 草の根リーダーが、「仲間がいる」と思える
	計測可能な目標		・草の根リーダーの数 ・活動テーマの数 ※定性面は、不定期にアンケート実施
	戦略と行動計画		草の根リーダーが周囲を巻き込むための「思いと思いが繋がる場づくり(7つの処方箋)」 (特に 五感塾 を含む草の根リーダー塾や、異業種交流)

全体像を掴むためのセッション ～それぞれの五感塾ものがたり～ (3)

【ルポ:参加者】

■事例3. 私塾の人づくり: (株)再生日本21「志塾」

「私塾の人づくり」として再生日本21の石原さんをはじめ、志塾生卒業生4名のそれぞれの五感塾に対する思いや志について語っていただきました。

一人目の方は、日ごろから自分自身だめ人間だと感じていたが、五感塾に参加したことにより自分自身の気づきの感性ができていないことに気づいたそうです。いままでは、気づきについて杓子定規に考えていましたが、**自分流で良いんだと気づいた**ことにより、肩の荷がとれ、その後は、今まで気がつかなかった身の回りのことにも気が配られることによって、いろいろな事が感じられるようになったそうです。

二人目の方は、岡崎五感塾に参加して、吉田松陰先生について考えさせられることが多かったそうです。特に感じたことは、**勉強とは本を読むことだけではなく、自分自身で感じ取って学ぶことが重要**であることだそうです。五感塾では松陰先生のゆかりの地におもむき、いろいろと感じ取り、学ぶ機会が多く大変有意義であったそうです。

三人目の方は、松下政経塾に参加して、自身がプレゼンを行ったが、振り返りにあり、ケチョンケチョンにされたそうです。その際に思ったのは、自分自身のもつ志が低かったと感じたそうです。自分自身の成長のためには、志を高く持つことによって同じような志を持つ人たちとの出会いが出来、切磋琢磨して成長を続けるのではないかと感じたそうです。**志がすべての源である**と力説されておりました。

四人目の方は、会社を退職されて間もない方ですが、ボランティアでバングラディッシュにいった際に、子供たちに将来の夢を聞いたら、「親を楽にしたい」との答えが返ってきたそうです。これは日本が忘れてしまったことではないか、**日本は物は豊富になったが、本当に幸せになったのか**と考えさせられる出来事だったそうです。定年、定年と考えずに、これから自分自身が出来ることがまだまだあるはずなので、これからいろいろ取り組みたいと考えているそうです。

4名の方のお話を聞き、皆さん、前向きに物事を捉えて、すばらしいと思いました。ただ、すべて前向きに捕らえられているわけではなく、何かのきっかけがあって、初めて前向きに捕らえられたのではないかと思います。そのひとつの方法が五感塾ではないかと思います。**今までは気がつかない小さなことや出来事、ちょっとした一言を捕らえて、それを自分自身に取り込むことにより、自身が変わることが出来るのではないのでしょうか。**私自身まだまだ五感が発達していませんが、参加された方は、それぞれの感覚を研ぎ澄まし、さらにブラッシュアップすることにより、自身の成長、周りの方への影響度を増しているのではないかと感じました。



【参考】(株)再生日本21「志塾」活動コンセプト

「志塾」の目的

テーマ：「草莽崛起」「知行合一」「相互学習」

「志塾」では松下村塾のような私塾を目指しています。自由な発想において、将来の日本を良くするために「志」を広げていける人々、この日本を建て直すことができる人材を作ることが目的です。

教育テーマ

志を立てる
日本人とは何なのか？
人間が本来やるべきことは何なのか？
歴史認識、歴史から見た日本の現状

志塾で共に目指すこと

1. 志とは何か、志を立てるには・・・
人間の根源を共に考える
2. 学んだことを自分の地域や職場で伝える
バイタリティを持とう！
次は自分自身が地域に塾を開き、志を伝えるべし！
3. 地域に貢献すべし！

実行

1. 現実を直視する。
2. 現地現場を知る。
まず、現場に赴き何が
起こっているか確認する。
3. 行動を起こす。
ある程度のリスクを背負って、
発言し、行動する。

—歴史に学ぶ
—問題解決能力
—実行力

志

—人間力
—気づく力
—感じる力
(五感塾)

目標

1. 地域での塾長／
プロデューサー
実施：伊豆五感塾
信州五感塾
2. 自分の足元から改革を！
どんな小さなことでも、
現在の環境の中で、自分
ができることから実行する。

人と人とのつながり（人財ネットワーク）・地域貢献（社会と自然との関り）

より深くわかるワークショップ ～ 分科会形式で活発な意見交換 ～ (1)

■ 紹介： 分科会の主役、各五感塾の地域プロデューサー

佐渡



加藤広文(こうぶん)さんは、ジャーナリストとしてNHK海外特派員など広く多くのご経験をお持ちです。現在は生まれ故郷の佐渡で庵「**夢里仙洞**」(むりせんどう)の屋号を持ち、持ち前のバイタリティで、佐渡の伝統・文化・歴史といった切り口で島民のネットワークをつなげています。著書に、『真夜中の怪鳥 ロンドンつぶや記・差異事記』があります。「読売新聞(欧州版)」「新潟日報」地元誌に好評連載されました。【文責：上條】

米沢



山崎洋一郎さんは、**社団法人米沢工業会(山形大学工学部同窓会)**の**常務理事**という大役を務めながら、米沢内外の幅広くも奥深い人脈ネットワークを、地域活性化に生かしていらっしゃいます。米沢を愛する思いが滲み出ており、100人会えば100人が好きになってしまう、不思議なお人柄が感じられます。一方で、電話一本で米沢市長の安部三十郎氏へのアポイントを獲得できる敏腕をお持ちで、米沢五感塾2008の実施にあたっては、山崎さんなくては為しえない数々の学びの場が実現しました。【文責：鈴木】

奄美



安田壮平さんは、奄美五感塾のプロデューサーです。民間企業を経て、**松下政経塾(25期生)**に学び、その後、奄美大島に帰郷。現在「人づくり」による島おこしに取り組んでいます。その中で、現在、**NPO「ゆずり葉の郷」**にて不登校や親の愛情に恵まれない青少年の支援に情熱を傾けています。謙虚で誠実な人柄は島の頼れるお兄さんであり、一度お会いすると安田ファンになってしまう魅力をもった人です。将来の奄美大島のリーダーを目指す、熱い気持ちを持ち続けた青年です。【文責：石原】

海士



阿部裕志さんは、**株式会社「巡の環」**代表として、「地域の魅力を最大限に活かしながら人々が主体となる地域づくりをお手伝いします」という志をお持ちです。海士町の豊かな自然と改革精神を持った島民とともに、人づくりと産業の創出などによりターンの若者を集う島として町おこしのモデル創りにチャレンジしています。海士五感塾は、「未来を創るまちづくり・生きる命の環・多様なつながり」の視点で開催しています。【文責：末吉】

小布施



木下豊さんは、私たちが「おぶせわにん」(「小布施」の「世話人」と名付けさせていただいた最初の方です。「美日常の、いいまちをつくりましょう」を合言葉に、ご自宅の素敵な庭を見渡せる一室を仕事場として**出版社「文屋」**を立ち上げ、暮らしと仕事を含めたご自身のあり方を「**田園プロデューサー**」と呼んでおられます。小布施掃除に学ぶ会の世話役をはじめ、我々の研修会や機関誌のお世話もいつも笑顔でお引き受けくださる、風と土(来訪者と生活者)の架け橋、縁結び役、やはり「おぶせわにん」なのです。【文責：角谷】

より深くわかるワークショップ ～ 分科会形式で活発な意見交換 ～ (2)

■ワンショット： 各五感塾の地域プロデューサーを囲み、参加者が思いを交換



佐渡五感塾 分科会

■ファシリテーター：
佐藤 哲郎(志塾第1期生)



米沢五感塾 分科会

■ファシリテーター：
鈴木 崇之(帝人グループ)



小布施五感塾 分科会

■ファシリテーター：
角谷 由美子(イオンテール労働組合)



奄美五感塾 分科会

■ファシリテーター：
末吉 真(イオンテール労働組合)



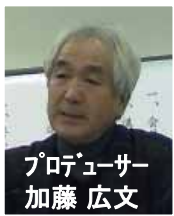
海士五感塾 分科会

■ファシリテーター：
高橋 泰彦(イオンテール労働組合)

より深くわかるワークショップ ～ 分科会形式で活発な意見交換 ～ (3)

■ 感想： 分科会参加者が地域プロデューサーから気づき・感じたこと(一部)

佐渡



プロデューサー
加藤 広文

◆「本物(ほんもの)」「夢」というテーマをあらためて考えました。自分自身においても、仕事においても、本物・夢にむかっていけるかどうか…まずは自分自身がそうあろうとすることが、社会や職場にそんな人をふやしていくことにつながるのだと思います。
◆私自身も普段の生活の中で感動を求めることが良くあります。ただ、実際には、“感動する”ではなく、“感情的になる”といった方が正しいです。
◆ジャーナリスト、NHK海外特派員を経験され現在故郷の伝統・文化・歴史といった切り口から「夢里仙洞」を立ち上げ、「本物とは何か」「偽物文化とは」と現代に問われるテーマに興味を持ちました。

米沢



プロデューサー
山崎 洋一郎

◆素朴な山崎さんのお人柄にいたく感動しております。昨年10月の米沢五感塾に参加させて頂いて以来、面識はございましたが、改めて、今回感じました。
◆山崎さんの米沢に対する愛情の深さを感じることができました。隣県でもあり、今年は天地人つながりでもあるので、近いうちに米沢に旅に行きたいと思っております。山崎さんのおっしゃられた「天地人ブームで観光客が賑わっているが、3年後にはまた元にもどるだろう」という言葉は新潟も同じであり、地方に住む一員として「魅力のある地域とはなんぞや」ということを漠然とはありますが考え始めました。

奄美



プロデューサー
安田 壮平

◆想いのこもったお話が聞けてたいへんうれしかったです。表現が非常にわかりやすく、心に響く言葉がたくさんあり自分でも何かしたいと強く思いました。特に「なぜそんなに奄美大島のために一生懸命になれるのですか」という質問に対して、少し考えた後笑って「奄美が好きだからです」と答えられたのには、何か感動を超えてショックを覚えました。
◆奄美の地をみんなに知ってもらいたい。奄美の人に奄美のよさを感じてもらいたい。そういった安田さんの想いが伝わった。果して自分はどこまで地元のことを愛しているのだろうか？何かを想いをこめて本気で取り組んだことがあるのだろうか？様々なことを考えさせられた。

海士



プロデューサー
阿部 裕志

◆海士の「どうか、親孝行してください」と涙された漁労長さんのお話、こんなにも人は輝くんだという感動、長生きの秘訣は「人に、自然に、歴史に恋をすること」という長老さんのお話、海士に作りたいたい人間力大学のお話…。そして、「いろんな考えを聞いて自分のフィルターにかける」という言葉。短い時間でのお話でしたが、いろいろと心に染みしました。
◆海士「島の生き残りをかけた挑戦」には阿部さん熱意と決意を感じました今後は私自身が少しでも周りの方々に対し影響を与えられる人間となれるよう五感を磨いていきたいと思っております。

小布施



プロデューサー
木下 豊

◆木下さんの小布施への愛の強さを感じるとともに、愛あればこそその厳しいまなざしに背筋が伸びる想いがしました。「僕から見たら小布施はまだ30点。やるべきことはたくさんある。でもこの町が好き」という発言は強く心に残りました。僕も、地域、会社に対して同じような愛をもって接し、行動していけるようになろうと素直に思えました。
◆自分の地域での行事への積極的な参加をすることからはじめて行きたいと思えます。何があるのか、どんな人が暮らしているのか、どんな思いがあるのか…(きっと様々な人がいてそこには様々な思いがあるはず…出会い)。

より深くわかるワークショップ ～ 分科会形式で活発な意見交換 ～ (4)

■ファシリテーター(中立な進行役)ってどんな役割？〔参加者のメッセージから推測〕

佐渡



ファシリテーター
佐藤 哲郎

- ◆ご自身のこれまでの現実の仕事の積み重ねの中から、**わきでてる言葉**による進行・コーディネートがとても感銘をうけました。
- ◆参加者の多くの気づきを**ひとつひとつ汲み取って**いただき、丁寧なディスカッションをすることができました。五感に響いた言葉は「素直な心」。
- ◆一人ひとりの発言に対し、**とても丁寧に**ご自分の思いを重ねて発言されたことに、温かさややさしさを感じました。地域を良くしていこう、人と人とのつながりを大事にしていこう、という佐藤さんの思いが伝わるひと時でした。ありがとうございました。

米沢



ファシリテーター
鈴木 崇之

- ◆進行役としてどうやって**話を膨らませてもらうパスを出す**のかということ、考えさせられる体験をした直後だったので、鈴木さんの自然体で輪を作られる様子はとてもためになりました。こういった話し合いに実際に参加して自分も自らの気持ちを開放して、良い場で話し合いをしたりしながら、自らも**場の流れをつかむ**ことが出来るようになればと思います。
- ◆参加した皆さんがわかりやすく行動でき、自分達の五感を使って**体験できるように進めていただき**本当に有難うございました。一つ一つが私にとって学ぶ機会です。これからにつなげていきたいと思っています。

奄美



ファシリテーター
末吉 真

- ◆1対多数の交流を行う際のファシリテーターの方の重要性を改めて感じました。**今から何を得るのか、タイムスケジュールの目安、その区切り方、質問の促し方など**、自分も参考にしていきたいと思っています。
- ◆**場の雰囲気を感じ**、進行してくださいまして、ありがとうございました。

海士



ファシリテーター
高橋 泰彦

- ◆参加者と感じたことを共有する場面において、『感じ方は人それぞれ異なるし、正解はない』また、『感じたことを日常にどう活かすかが大事であるが、すぐには変わるものでもない。学ぶことを学ぶ』という言葉に、**みな安心して発言出来た**し、参加者それぞれの気づきがさらに気づきをもたらしたと思っています。
- ◆まずは自分のまわりで何が出来るかと思うところからスタートです。気づきがたくさんありました。**引き出していただいて**ありがとうございます。
- ◆すばらしい**進行とフォロー**をありがとうございましたまた今後とも、よろしくお願いいたします！！

小布施



ファシリテーター
角谷 由美子

- ◆小布施分科会では、当初**ちょっとかたかった場をほぐす**ため、やわらかい進行を進めていただき、ありがとうございました。
- ◆分科会終了直後に「〇〇さんがうなづいてくれてたから進めやすかった」と言っていたいただきましたが、僕のほうこそ角谷さんのおかげでとても自然に発言ができました。また、僕のつたない発言を**素敵な笑顔で何度もうけとめていただいた**ことにも大感謝です。
- ◆**すべての参加者からの発言をうながして**みえて好感がもてました。

特別講演60分 「いのちの組織」 田口佳史 〔東洋と西洋の知の融合研究所 代表理事〕 (1)

■田口先生のメッセージのエッセンス:

【ルポ:参加者】



田口佳史先生



後日、参加者全員に著書『東洋からの経営発想』を贈呈いただいた先生に大感謝！

- ◆最も大切なことを忘れていて社会・組織・企業を転換しなければならない。
- ◆根源・長期・多様・・・東洋的視点。企業も行政も政治もこれらと正反対になっている(表面的・短期的・単発的)。
- ◆今、世の中は人工的にものごとを進めようとしている。人工というのは人間にとって何かというと、ある枠の中に押し付けて、その枠内に生きろという抑圧であり、とても住みにくい。
- ◆人間の営み・生活・生き方・人生の根源とは何か・・・「いのち」である。すべての行為をストップして、皆でいのちの重要性について、洗いざらい自分たちの行為を転換していかなければ、どこまでいっても自分たちの根源であるいのちが粗末に扱われてしまう。政治に頼るのではなく、自分の周りから一つ一つ点検作業をしなくてはならない。
- ◆組織の根源とは社会にとって必須かどうかである(社会的存在意義を自らに問う)。
- ◆社会は自分(一人)と他社(その他すべて)からできている。自己本位・利己心の姿勢になったとたんに社会から孤立する。ところが、自社の利益・自分の売上・自分の業績ばかり頭にあって、方便のために「お客さんのため」といっているのではないか。利己主義を促進するのが社業であり仕事である、ということの転換を図らなければならない。
- ◆物事はすべて本末がある。「徳はもとより、財は末なり」。徳という概念は江戸時代子供に最初に教えた概念で、徳の本義とは「自己の最善を他者に尽しきる」である。
- ◆「経営者の条件は運が強いことである。運を強くするためには徳を積むこと」(松下幸之助)
- ◆仕事とは自己の最善を他者に尽くしきるチャンスを作ってくれる。そのチャンスを役立てて初めて自分に与えられた仕事の意味がある。こういう社会であれば本当の幸せ。

特別講演60分 「いのちの組織」 田口佳史 〔東洋と西洋の知の融合研究所 代表理事〕 (2)

■参加者の声(一部):

- ◆自分自身がありたい姿、夢を実現するためには、『働くうえでの基本、生きるうえでの基本・・・(自分自身のあしもと)』をしっかりすることを、毎日毎日つづけることが大事だと実感しました。
- ◆一つ一つの言葉が重厚で心に響きました。人としての根源、形はどうあれ親、近隣の大人たちから学んだことだと実感しました。しかし、今この年齢になり日々生活する中で、忘れてしまったことは確かです。そして、それをもっと高めなければならない。他人に強い価値観を植え付ける力(魅力)のある人間を目指したいです。
- ◆人として生きていていったい何のために働いたり、学んだりしているのかについて考えるいいきっかけをいただきました。徳を積む、仕事とはなど非常に深いお話をうかがい、今後の自分の人生についてもっと真剣に考え、誠実に取組まなければと思いました。
- ◆現代の組織が抱える数々の問題に対する回答のヒントが東洋思想の中に数多く秘められていることを知り、これまでに関心や知識のなかった分野に新たな可能性を感じ、もっと知識を増やして実践に活かしたいと思いました。ありがとうございました。
- ◆東洋思想の普遍的な価値の重さと命を大切にすることへの警鐘に感動しました。インビジブルな(みえないもの:六感&潜在意識)ことへの注力が大きなパワーになることを感じました。
- ◆躰や人間教育の基本に関して自分も見習いたいと思う部分が数多くありました。自分が人の親になった際には自分の子供に対してきちんと教育ができる親になりたいと思います。そのためにも今は自分をしっかり磨いていこうと思いました。



桂米福師匠の古典落語一席(45分)

なぜ、組織や地域の人づくりに落語なのか…

3名の感想文から「何か」を「感じて」いただければと思います。



【感想1】

桂米福師匠には、「**プロフェッショナルとは何か？**」を全身で**教えていただいた**と思います。大いに盛り上がり、全員の五感がフル回転して、幸せな気持ちになりました。他人を演ずることはとても高度な技で、**心底相手の気持ちになる**ということなのだわかりました。日々精進という気持ち、忘れないようにいたします。

【感想2】

今回初めて落語を間近で拝見しました。話に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。この五感塾フォーラムに参加する前は「なぜ落語？」と思っていたのですが、ほとんど小道具を使わず、話し方やしぐさで、**聞く人の想像力に訴え、その情景が浮かぶようにする**というのは、日々様々なもの、こ
とを感じ、観察し、考える必要があります、まさに**日々五感を研ぎ澄ましていないと良い噺ができないのだ**と思いました。

【感想3】

落語というものを始めて生で聞いたが、**場の空気を作り出す**師匠の話術はただただすごい一言。人前で話しをする機会が多い自分としては、**間の取り方**は非常に参考になった。



第1回 五感塾ネットワーク・フォーラム

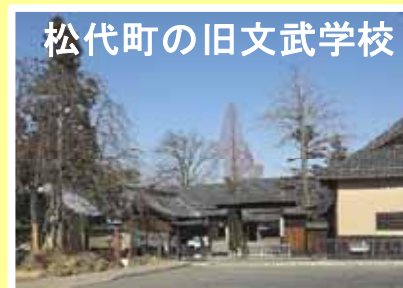
■第2日目のプログラム

8月2日(日)

流れ: 各宿泊場所 ~ 北斎ホール ~ ミニ五感塾 ~ 解散

5:30 ●五感アクティビティー(希望者は、以下3つから体験できます)

1. 清掃(各自宿泊施設の周囲で)
2. 特産小布施丸ナスの収穫(有料・現地回収／手配済みバスで移動)
3. おぶせ温泉にて朝風呂(有料・各自精算／各自タクシーで移動)



7:30 朝食(それぞれのお宿にて)

8:30 ●「信念(おもい)」の溢れる朝の集い @北斎ホールにて

- ・メッセージ『わたしの信念(おもい)』 新妻健治(イオングループ労働組合連合会長)
- ・「つながり」をもとにして、高まる「信念(おもい)」を交換するような場をつくりましょう

9:30 ●ナルホド! が浮かぶための「ミニ五感塾<その1>」 ※2班に分かれます

- 1班: 小布施ミニ五感塾(平松農場、ワイナリー、町立図書館まちとしょテラソ、オープンガーデンなど)
- 2班: 松代ミニ五感塾(松代大本営象山地下壕、高校生との交流会など)

14:30 解散: 1班は長野電鉄小布施駅にて14:20、2班はJR長野駅にて15:00

早朝5:30からの五感アクティビティー (希望者のみ参加)

■ 選択肢1: 丸ナス収穫体験



■ 選択肢2: ミニトイレ掃除大会@浄光寺



汗を流しに
小布施温泉へ





「信念(おもい)」を交換するセッションでのシェアリング



1. 「つながり」から「やってみようか！」が生まれることを願って、次の2つのセッションを行いました:

①「一緒にやってみようか！」セッション(20分)

「この人と何か一緒にやりたい」という人に近づいて、今後のアクションについて、それぞれの構想を交わしました。

②「信念(おもい)」を交換するセッション(25分)

これまでの「あしあとシート」へのメモ書きをもとに、次の3点についてシェアリングをしました:

- ・参加する前は、何を期待していましたか？
- ・期間中に得られたもので一番大切なものは何ですか？
- ・職場や現場に戻ってやってみたいことは何ですか？
それは、いつ、どこで、誰と、どんな風に？

2. メッセージ『わたしの信念(おもい)』

新妻健治(イオングループ労働組合連合会長)

北村三郎氏(本フォーラム会長)と二人三脚で五感塾を試行錯誤してきた新妻氏(本フォーラム顧問)。「“こうあるべき”“こうならなければならない”は、自分を縛る。“**こうしたい**”と思うことで多くの出会いがあり、“**こうありたい**”気持ちがつながってこのような場が生まれた」とのメッセージが、「**昨日から、何度となく涙の出る場面があった**」と、万感の思いも溢れていました。「3年後くらいを視野に入れて、第2回ネットワーク・フォーラムの開催を」と、将来への展望も示唆されました。



新妻 健治顧問

ナルホド！が浮かぶための小布施ミニ五感塾(1)

■まちとしょテラソ(町立図書館)： 花井裕一郎館長のお話



「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」という理念のもと、①子育ての場、②学びの場、③交流の場、④情報発信の場という4つの機能を持った図書館。町民を巻き込んでの新築プロジェクト(本年7月オープン)の経緯と展望について、パッション溢れるお話を伺いました。

■平松農場： 平松幸明園主のお話



栗・あんず・りんご・ネクタリン・・・信州小布施の土と風と光の恵みをいっぱいを受けた果樹づくり。そこに込める思いを伺いました。最後の最後に手にする「成果」。そこに至るまでのさまざまなドラマが伝わってくるようなお話となりました。

■オープン・ガーデン(町民が自庭を開放)： 跡部由美子さんのお話



押し花アーティストの跡部さん。輸入雑貨とアトリエの「カントリー・ママ」を主宰し、小布施オープンガーデンのひとつとして「イングリッシュガーデン」を開放しています。「何メートルもの雪の下でも、植物は耐える力を持っていることを知ったのが、押し花づくりの原点」と。

ナルホド！が浮かぶための小布施ミニ五感塾(2)

「みんな小布施が好きなんだなあ」

【ルポ:参加者】

まちとしょテラソの花井さん、平松農場の平松さん、オープンガーデンの跡部さん、色々と真剣に親切にお話をしていただきましたが、皆さんどの方も楽しそうにキラキラとしていて、**ほんとに小布施が好きなんだな**と感じました。

もちろんいろんな苦労もあるとのこと。まちとしょテラソは町民みんなの意見を持ち寄って立てた図書館だそうですが、花井さんは図書館を作るまでに町民の皆さんと18回も議論を重ねたそうです。平松農場の平松さんは、思ったように栗が育たなかったり、虫が出たりと自然と闘っています。跡部さんもご病気を乗り越えて最近やっと復帰されたそうです。その間のお花のお世話などなかなか出来なくて非常に心配されたそうです。皆さんいろんなことがあるけれど**やはり自分の好きなこと、好きな町を元気にするために努力することをとても楽しんでいらっしやるようでした**。きっとそれは一人ではなく、町のみんなで取組んでいるから出来るのだと感じました。

今回、小布施ミニ五感塾では、そういった町の皆さまの真剣でひたむきな姿に触れることにより、言葉や目に見える形のあるものだけでなく、**自分の中に湧き上がる説明の出来ない何か**が行動を駆り立て、困難を突破する原動力となるのだということを学びました。また、それを楽しんでやる、そして仲間と一緒にやることもあわせて大切なのだということも学びました。日頃会社で仕事をしている中では得られにくいまさに五感を使って学び、気づきを得た時間でした。ぜひこの言葉では表しにくい体験を周りの仲間と共有したいと強く感じた五感塾体験でした。

■小布施町内を散策： 中心街の風景



ナルホド！が浮かぶための小布施ミニ五感塾(3)

■参加者から地域の皆さんへメッセージ(一部)

- ◆観光で地域の名所に訪れることはありますが、地域の人たちとの交流は、人生で初めてでした。小布施は「交流」を意識したすばらしい町だと思いました。
- ◆僕ら参加者が多くのことを体感できるよう、細やかに**お気遣い**いただき、ありがとうございました。小布施では、物産展、パーティー、丸ナス採り、温泉、浄光寺・・・すべての場で**満面の笑み**をいただきましたし、たいへんすがすがしい雰囲気をつくっていただきました。本当にほんとうに、ありがとうございました。
- ◆小布施町の実際の町並みを見たり、町長の町づくりの話を聴く中で、『自立・協働の町づくり』、『交流が人を元気にする』という言葉掲げ、**実践**している事が、とても心に残りました。また、1万2,000人の人口の町に年間120万人の観光客が訪れる事も、地域の方々が取り組んできた結果だと思えます。
- ◆五感塾を受け入れてくださった小布施町の皆様には、ただただ感謝です。縁あって、最近続けて3回小布施に行きましたが、いつも「**おもてなし**」**スピリット**に触れるようなことばかりです。
- ◆小布施町には再度の訪問ですが、農業立町・文化立町の基本構想にそって、町の方々の暮らしがさらに進化(深化)して、「**美日常**」が深くなっている姿を見せていただきました。私たち五感塾体験をさせていただく側も、再度のリピーターとして訪れますと、文化立町や美日常への理解が深くなっていることを感じます。おもてなしの心に感謝申し上げます。
- ◆自分たちの町に対してとても**愛着**を持ち、一生懸命それを守り育てていこうとされていると感じとてもすばらしいと思いました。駅に着いたときの何か説明の出来ないいい雰囲気がなぜ出来ているのかが時間がたつごとに理解できた気がします。人がやることなので常にうまくいくことはないと思いますが、一人ひとりのいろんな努力で乗り換えてこられたのだろうと推察いたします。これからもすばらしい町を発展させていってください。今度はプライベートで遊びに参ります。
- ◆「**自律と協働**」をモットーに取り組まれている様々な施策(オープンガーデン、栗菓子屋、栗の木歩道、看板など)は、来る人を魅了する趣向が多々感じ取れました。小布施の人は「小布施が好きだ！お客が好きだ！」としみじみと伝わる出会い(平松さん・花井図書館長・跡部押し花アーティスト等)を頂き、自分の郷土は！？地元は！？と考えさせられました。**素敵な出会い**をありがとうございます。

ナルホド！が浮かぶための松代ミニ五感塾(1)

■松代大本営象山地下壕：長野俊英高校郷土研究班のお話



地下壕建設や強制立ち退きの様子を伺いました。25年前に封鎖された扉を開き、風穴を開けた先輩の志が受け継がれていました。土屋教頭先生のノーベル平和賞を目指すという志の実現をお祈りします。

■象山神社：ボランティアガイド小林貞夫さんのお話



幕末の志士、佐久間象山の生涯、人となりを伺いました。「三十にしては一天下、四十にしては五大洲、それにかかわる我身ぞと 覺りて叫ぶ大丈夫」小林さんのお人柄から伝わる象山の志は、松代の醸す雰囲気も相まって心の奥底に浸透してきました。

■文武学校：車座となつての意見交換会



文武学校の文学所にて、参加者全員が車座になって意見交換をしました。姿勢を正し、自己開示をする参加者の姿が印象的でした。宮本プロデューサーは自身の故郷の偉人「ふるさと」の作詞者：高野辰之を紹介し、参加者全員で「ふるさと」を歌で締めくくりました。故郷の自然に育まれた日本人の心を思い出す一コマでした。

ナルホド！が浮かぶための松代ミニ五感塾(2)

■「松代五感塾をプロデュースして思うこと」

松代五感塾プロデューサー 宮本吉寿(志塾3期生／長野県職員)



「友あり、遠方より来る。また楽しからずや。」全国から松代五感塾にお集まりいただいた皆様、本当にありがとうございました。我が郷土に35名もの方々をお招きし、歴史、風土を共に感ずることができました。感激の至りです。

松代という町は、真田家の歴史や、佐久間象山、第2次世界大戦と日本の歴史が深く刻まれた不思議な魅力をもった町です。歴史から学ぶということはどういうことでしょうか。あらためて考えてみました。親がいて、自分がいて、そして、自分の子供がいる。人はだれでも、過去からつながり、未来へ命をつないでいきます。当たりまえのことですが、自分は突然ふってわいたわけではありません。歴史を知ることは、今の私たちが、どこに立ち、そして、この先どこへ向うか定めることにつながるのではないかと。そんな思いから、多くの方々に、松代の歴史を知ってほしいと思い、今回、松代五感塾の地域プロデュースをいたしました。

今回の五感塾では、改めて私自身も学びがありました。

大本営象山地下壕の案内をしてくださった長野俊英高校の生徒たちからは、1月の下見の時より数段成長した姿を見ることができました。また、顧問の土屋教頭先生が、生徒たちには、ノーベル平和賞をめざしてほしいとおっしゃられていました。教育に情熱を燃やす先生の気概と志に感激いたしました。土屋教頭先生は歴史を多面的側面から見なければいけないといつもおっしゃられています。歴史認識は人それぞれ受け止め方が違うと思いますし、またそれで良いと思います。参加者それぞれが、五感で何かを感じ取ってくれたことと思います。

文武学校の文学所では、意見交換会をしました。松下政経塾出身の安田壮平さんからのフィードバックは印象的なものでした。安田さんは奄美大島を人材の島、宝庫にしたいという志をお持ちです。地元の高校生がしっかりと郷土の歴史を学びそれを伝えている姿に感動したとおっしゃっていました。今後の奄美での活動に期待したいと思います。

最後に、私の故郷の大偉人、唱歌「故郷」の作詞者、高野辰之先生を紹介しました。日本人であれば、たとえ都会に住む人でも、「故郷」の唱にその情景を思い浮かべることができると思います。そしてこの唱を歌えば、自分の原点を思い起こし、故郷の豊かな自然に育まれた日本人の「心」を思い起こすことと思います。その「心」を取り戻し、未来へとつなげていってほしい。そんな思いで話をさせていただきました。文武学校という場の雰囲気もあってか、しゃべりながら、こみ上げてくるものがありました。

準備不足のところもあり、至らないところが多々あったかと思いますが、無事終えることができました。今後も多くの方々に松代を訪れていただけるよう、五感塾をプロデュースしたいと思います。ご協力いただいた方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。

ナルホド！が浮かぶための松代ミニ五感塾(3)

■参加者から地域の皆さんへメッセージ(一部)

◆松代五感塾を体感させていただきました。像山地下壕見学の際には地元の長野秀英高校の歴史研究会のみなさんに説明をいただきました。ありがとうございました。**自分たちの住む町の研究をおこない、その研究を通じて世界の平和を願う。**現代ではどうてい考えられない出来事を事実として受けとめ、それを多くの日本人、人類に伝える役目までしている。そんな学生のみなさんに心打たれました。

◆今回は、松代に「ミニ五感塾」として始めてお邪魔しましたが、小布施とはまた違った町と街づくりに触れ新たな気づきもありました。**高校生たちが先輩から後輩へ伝承しながらの地下壕の調査や解説には様々な感銘を受けました。**

◆今回のフォーラムを縁の下で支えてくださる、地域のみなさまの**“おもてなしの心”**を実感する2日間でした。

◆自分の地域の歴史、現状をしっかりと勉強していきます(**私が生まれた場所の過去は？今何がおきている？**)。

◆**熱き想いと様々な実践の数々**をお示しくださりありがとうございました。たくさんの気づきと学びをいただきました。

◆私たちの活動を受け入れていただき感謝しています。**日常の生活ありのまま**を一緒に体験・体感させていただく事が私たちにとって一番の学びになる事、一番足りてなく必要なことだと思います。一生懸命に生きることの大切さ、難しさ、素晴らしさ...を再認識する機会を与えていただきありがとうございました。

第1回 五感塾ネットワーク・フォーラム

■第2～3日目のプログラム(ミニ五感塾オプション・ツアー)

- 15:30 バスでJR長野駅東口出発、伊那食品工業(株)へ
- 18:00 伊那食品工業(株)「かんでんぱぱガーデン」着、軽く散策
- 18:30 ファインデイズホテル着
- 19:00 ●夕食・交流会 羅針盤(0265-78-2245 ホテルより徒歩10分)

8月3日(月) 流れ: 伊那食品 ~ 菓匠Shimizu ~ 伊那食品 ~ 解散

- 6:30 朝食
- 7:15 出発
- 7:45 ●伊那食品工業(株)の朝の清掃活動と朝礼を、社員の方々と一緒に体験
- 8:30 バスで出発
- 9:00 ●菓匠Shimizuを訪問(代表の清水紀光さん、パティシエ清水慎一さんのお話)
- 10:15 バスで出発
- 11:00 ●伊那食品工業(株)の塚越寛会長のお話
- 12:00 昼食(「かんでんぱぱガーデン」内のレストランにて)
- 12:45 ●伊那食品工業(株)の「かんでんぱぱガーデン」と工場を視察
- 13:30 解散、バスでJR塩尻駅へ45分(新宿・名古屋・長野へ特急列車に接続)



伊那食品 朝のラジオ体操



菓匠Shimizu

オプション・ツアー 伊那ミニ五感塾(1)

菓匠Shimizu編: 取締役社長 清水紀光氏 / 専夢取締役 清水慎一氏

講演ルポ by 参加者



清水紀光社長にお話を伺った。「菓匠Shimizu」のルーツは62年前に遡る。当時ご両親が創業され、和菓子を作っていた。和菓子屋を継ぐのは嫌であったが、**お母さまを楽にしてあげたい、幸せにしてあげたい思いでやり始めた**そうである。お母さまが亡くなってから奥さまと二人三脚でやってきたが、売上げは伸びず、かなりご苦勞をされたそうである。背水の陣で臨んだ結果、「夢は実現する」ということを信じ、何が何でもやってやるという気概で努力された結果、人気店になった。今でも一店舗主義を貫き、最高の接客でおもてなしをしたいという思いは変わらず、**女性店員の「笑顔」**がそれを物語っている。



シェフパティシエ清水慎一氏は、「菓匠Shimizuの夢」をお話していただいた。エネルギーが豊富で、プラス思考の持ち主。毎日心がけていることは「27人の社員をいかに喜ばせるか」。「**叱られてうれしいと思わせるほどの人間関係をつくる**ことが必要であり、それには、自分がプラス思考にならないといけない」と言う。人生守るべき3つのことは、①プラス表情、②プラス言葉、③プラス動作、これを「**ワクワク思想**」と言う。

夢の一つである「子供たちの夢ケーキ」の話をお伺いした。「今の世の中、悲惨な事件が多いことに心を痛めている。お父さん、お母さんとのコミュニケーションが大事だと思う。**子供さんが自分の夢をお父さん、お母さんに語ってほしい**。その一つのツールがケーキである。ケーキを食卓にのせて、幸せな会話をしてほしい」「子供たちが食べたいケーキを絵で書いてもらい、それを一個ずつ手作りして、お届けしている。昨年は600個のケーキを作り、プレゼントさせてもらった」。

子供たちを喜ばせたいという熱い思いを実現させるために「**アホになれ**」と言う。「夢を信じる力、あきらめない力こそが世の中を動かすことに繋がる」という熱弁に心を打たれる。「**人間的成功は社会的成功である**」という言葉も印象的であった。

「菓子屋が変われば世界が変わる」「夢ケーキの日を作りたい」「ケーキ創りは夢創り」このように語るシェフの清水慎一さんの肩書きは「**専夢取締役 シェフパティシエ**」。



オプション・ツアー 伊那ミニ五感塾(2)

菓匠Shimizu編：取締役社長 清水紀光氏 / 専夢取締役 清水慎一氏

店内ルポ by 参加者

～ 講演前後では、店内で「感じる」ものが変化します～

美味しさの秘訣－左脳的感覚で言うと、**お寿司屋さんの感覚でケーキ作りをする**ことだそうである。つまり、握った寿司はすぐ食べてほしい、作りたてを食べてほしいという、ケーキ作りではあり得ない発想なのである。なぜならば、効率が悪いからである。しかし、清水社長は、これこそが美味しさの秘訣だと言う。作りだめをしないこと、これこそが、あの「フワッと」した感触の味の源であったと納得する。

また、右脳感覚で言うと、「思い」「お客様第一主義」がケーキに込められていることである。社長曰く、今は田舎でも都会でもケーキが美味しいのは当たり前と言い切る。**大切なことは、お店のもつ理念、ポリシー、思い、経営者の生き様、従業員の人間性に共感した人が集まってくるお店づくり**であることだと言う。確かにとても大切なことであることは分かる。しかし、なぜ、それが美味しいケーキに影響してくるのか？

社長に伺う。「作り手であるシェフだけではお客様の信頼は得られない。接客も大事である。従業員の態度こそが企業の基本にならなければならない。いつも整理整頓を心がけ、心地よい緊張感を持ちながら仕事をするのが大事。オープンキッチンにするのもその一つ。**挨拶はもちろんのこと、通勤時の服装や態度などお客様に見られていることを意識することが大事である**」。

お客様第一主義の徹底した教育こそが、ケーキの美味しさの中に「思いやり」エッセンスが入っていくものだと感心した。これは目に見えないエッセンスなのであろうが、これが「やさしい」味に変わるのである。お客様に気持ちよくお買い物をしてほしい、お客様に「菓匠Shimizu」の思いを伝えたいということがケーキという形となり、**従業員全ての人の顔が「やさしさ」と「感謝」に満ち溢れている**ように見えるのは、私だけではなかったと思う。

モノ創りは夢創り－**日本のモノ創り**は「物質的な豊かさ」から**「心の豊かさ」**へと機軸が変わっていつているが、「菓匠Shimizu」はこの両面が備わっている理想のモノ創りであるように感じた。もちろん、ここまでの道のりは並大抵のことではなかったと思う。現場は厳しく、またお菓子業界も厳しいものがあると聞いた。常にお客様にあきられないように、年間の定番商品の他に新商品の開発は常になくてはならないと聞いた。そこには商品を**「変える勇氣」**も必要であるらしい。人気店も常に変化し続けることが必要であり、努力が必要なのである。どの業界も同じであろう。

最後に、清水社長の言葉。「お菓子作りは、今は**天職**だと思っている。父に、母に感謝をしている。いい仕事を選んでくれた。お菓子は人を幸せにする魔力になるから。」



菓匠Shimizu



菓匠Shimizu(店内)



父子のワンショット

オプション・ツアー 伊那ミニ五感塾(3)

伊那食品工業(株)編： 本社周辺での朝礼の様子 【ルポ:参加者】



秘書広報室 丸山取締役にご案内いただく。私たちの隊列が長く延び、集合に時間がかかると、「基本動作は、早足、大声」と厳しい注意を受ける。

ガーデンのあちらこちらで、社員の清掃活動が既に始まっていた。勤務時間前の自主活動として、役員も含め、8:20の始業20~30分前に出社し、着替えてから清掃活動をしているとのこと。清掃中の塚越会長も見かけた。

丸山取締役曰く「**自分たちの会社を自分たちできれいにするのは当たり前**」。社員の皆さんはどなたも清掃作業の手を止め、笑顔でさわやかに「おはようございます」の声をかけてくださる。

← もともとは芝が張っていたが、毎日の清掃で芝がなくなり、苔になった木の根元

8:20に本社入り口前の広場で朝礼が始まる。本日の当番である塚越会長が従業員の前で講話。

「**“いい会社をつくりましょう”という理念**に注目が集まっているが、**経営は理念だけで成り立つのではない。日常の智恵が大切である**。例えば、かんでんぱぱガーデンを東西に分断する道路に架かった横断橋の手すりがいつもきれいなのは、社員が手すりを掃除しながら渡ってこようという知恵が出たからです。先日は、北丘工場のラジオ体操の曲がラジオ体操第1から第2へ変わっていた。これも誰かが考えたことだと思う。命令されるより自分で考えたほうがいい。これでいいのかと考えると、智恵が生まれる。こうして会社は強くなる。」

社員が行動に移しやすい分かりやすい内容で、「**知らせる**」のではなく「**知らしめる**」ことの大切さを説かれる会長ならではのスピーチであった。

オプション・ツアー 伊那ミニ五感塾(4)

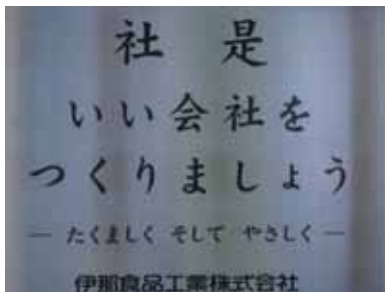
伊那食品工業(株)編： 塚越寛会長の講話 【ルポ：参加者】



- ◆上場企業の場合、悲しいかな株式市場の影響を受けます。市場・株主は「時価総額＝会社の価値」という認識をしており、コレは誤りなのです。経済学者もアナリストも誰も間違いだとは言いません。時価総額を増やすことを会社の目的としてしまっています。
- ◆基礎固めをじっくり、ゆっくりすること。会社の「永続」が全てに優先します。それが、間違いをおこさないことにもつながります。「大きくすること」を目的にすると、マイナスが多いのです。
- ◆誰もが安いものを求めているわけではありません。過度の安売りはお客様側に立った理屈ではなく、同業者間の競争の中だけのものです。商品そのものに価値がないから、「バナナの叩き売り」になってしまう。競争する手立てが価格しかないことが問題です。安売り競争は利益を圧迫し、社員の給料は減る。だから、日本全体で売価を一割上げれる努力をすればいいのです。メーカーの卸売価格も一割上がる。皆で手取りを上げれば、国民の購買力も上がります。景気も回復するはずです。
- ◆研究開発に人員の一割を充てています。いつか必要とされる研究開発を、ゆっくりと気長に継続しているので、よいものがぽつぽつと出てきます。だからこそ、緩やかな右肩上がりで伸びていけると考えています。

オプション・ツアー 伊那ミニ五感塾(5)

伊那食品工業(株)編： 塚越寛会長の講話 【ルポ：参加者】



- ◆社員の教育については、「教育勅語」を大事にしています。当たり前のことを当たり前に行うということです。
- ◆二宮尊徳は、遠くをはかることを教えてくれました。今の経済社会は、目先の利益を追いすぎです。
- ◆技術・スキルは金を得るために習得しますが、その前に、どうあるべきかという哲学を学ばなくてはなりません。目的と手段を間違えないこと。会社の利益は何のためにだすのか・・・日本の国民が幸せになることが会社の目的です。
- ◆社会に野心家が増えた理由は、教育にあります。人間教育。自分さえよければいいという生き方が問題です。野心を持つことはいいが、そのエネルギーをどこに向けるかが問題なのです。志を持たなくてはなりません。それは侍の心です。大きく公のためになるということです。経営者はロマンではありません。人を使う以上、責任と義務があります。
- ◆当社は、年功序列です。ただし、誰が見ても優秀な人は抜擢する「抜擢のある年功序列」です。
- ◆当社は従業員400人の小さな会社ですから、事業所別に、毎朝、経営陣がかわるがわる話をしに行けます。全員集めて話すことも多いです。

参加者の声：「あしあとシート」から

「あしあとシート」の表面

■第1回 五感塾ネットワーク・フォーラムが目指すもの：「やってみようか！」

「五感塾って何だろう?」「地域側のメリットは?」「地域プロデューサーとの縁のつくり方は?」「どうしたら自分たちで五感塾を広められるだろうか?」「社内のキーパーソンを動かしたいけど、どうしたらいいか分からない!」...そんな疑問や悩みを一緒に考える場をつくりましょう。五感塾的な人財育成の場づくりへのはじめの一歩。いろんな「やってみようか!」が生まれることを願って...



名前: _____
 所属: _____
 email: _____

1. ネットワークの仲間たちへ伝えたい信念(おもい):

プロデューサーへ(プロデューサー名: _____)

ファシリテーターへ(ファシリテーター名: _____)

場を共有した仲間へ

地域の方々へ

「あしあとシート」の裏面

2. 自分へ: 自分の持ち場に帰って「何をやってみようか!?!」

参加する前は、何を期待していましたか?

期間中に得られたもので一番大切なものは何ですか?

職場や現場に戻ってやってみたいことは何ですか?それは、いつ、どこで、誰と、どんな風に

3. 五感塾へ: 五感塾の進化・発展・普及のために、フィードバックをお願いします

ここがgoodと思いました:

自分(たち)が主催するにあたって、障害や課題となることがありそうです:

その他、自由にご記載下さい:

※本シートは、まずは分科会の中で記入し、朝の集いで使います
 ※後日、清書版(電子版)を世話人に提出いただきます

■設問1:「期間中に得られたもので一番大切なものは何ですか？」

- ◆志の高い、**同世代の仲間**がたくさんいること。
- ◆参加者個々人の**志の高さと学ぶ姿勢**。
- ◆**言い出しっぺが動く**リーダーシップの重要性。
- ◆**やりながら考えよう!**という一歩踏み出す勇気を頂いたことです。
- ◆この研修は、よくある、ナレッジやスキルを磨くものと違って、**ハート**に響いてきた。**プラスのパワーをもった多くの人**と接することができ、ネガティブに物事を捉えてしまいがちな自分が少しの間ポジティブな気持ちを持つことが出来た。何か一生懸命に情熱を傾けている人と接する事が出来たのは、大きな学びであった。
- ◆日々様々なものを映像や文字で、見聞きしているが、**実際に体感(行動)すること**に勝るものはない事を感じ取ったことです。
- ◆自分と自分たちの足元を見つめ、足元から暮らしや仕事、さらには**この国をよくしていこうという想いをもって行動に移している人たち**とお会いして、語り合うことができたことです。
- ◆**いい意味で裏切られました**。大事なものは理屈で人に理解させることだけではなく、みんなの中にある何かをしたい、善く生きたいという内発的なものに訴える、右脳に働きかけることが大切なのだという気づきが得られました。これに気づかせていただいたことが今回一番大きなことでした。
- ◆**本物にふれる**ことの意味。**夢にこだわる**・夢をもつ(まずは自分自身から)。
- ◆**相手を思いやる**中で、**自分の志**をいかに高めていき、実践に結びつけ、結果として人間力の向上に結びつけば素晴らしいものになると思いました。

■設問1:「期間中に得られたもので一番大切なものは何ですか？」

- ◆学ぶ姿勢の大切さ、日常に継続することの大切さ。感じる事、感性、感情を素直に出すことの大切さに改めて気づき、**人と人とのつながり**の大切さを感じられました。
- ◆多くの参加者が、**素直な心を出し合える場、ウソの無い人間関係、人と共感できる場**を求めて、このフォーラムに集ったことが実感できたこと。〇〇市の〇〇さんに、五感塾への理解と共感をいただき、〇〇五感塾実現に向けた協力者になっていただけたこと。
- ◆ **共感**する**素直**な心と**自然体**かな。無関心・無気力・無責任な社会にかすかな輝く兆しを見つけられました。
- ◆おもてなしの心、思いやり、自分のこととして考える姿勢。**温かい心は伝播する**ものだと知りました。
- ◆小布施の方々との**出会い**から学んだ郷土愛とホスピタリティー(おもてなしの精神)。
- ◆“地域とのかかわりの重要性を感じました。いままで地域が重要であることは認識していましたが、今回参加させていただき、重要性を再認識しましたので、**もっと積極的に地域とのかかわりを持つ**と感じました。皆さんが頑張っているので、自分も負けずに頑張らないといけないって、元気をもらいました。
- ◆ビジョンが見えれば、志が解かりあえれば人との結びつきは強くなる。光があれば影がある。でも**理想と現実の間で少しでもより良い地域を目指すという強い思い**が大事であるということがわかりました。仕事や組合の活動の中でも生かせる学びがありました。**参加者同士の濃厚な振り返り**が重要ということもわかりました。

参加者の声(3)

「あしあとシート」
から一部抜粋

■設問2: 「職場や現場に戻ってやってみたいことは何ですか？」 「それは、いつ、どこで、誰と、どんな風に？」

- ◆何、という具体的なことはまだありませんが、**日々の小さなところ**(家族、職場、地域)から、自分から何か動き始めることで**人と人のつながり**を広げていきたいです。
- ◆日常生活の中で**自分の行動を見直す**。自己中心的な行動や発言はしていないかどうか？挨拶、挨拶の仕方を見直し改善する。
- ◆自分らしさを出すことにより、より良い人間関係を築く中で、職場がより活性化され、楽しい、嬉しい現場づくりをしていきます。日々の行動の中で、**いつも笑顔で人に接する**ことが出来るようにしたいです。
- ◆①みんなで現地・現場を見て体感することの大切さを実感するための**場作り**をする。②自分のチーム(組織活性化チーム)のメンバーと目指したい姿の現場に行き、実際に話を聞き、一緒に考えることからはじめたいと思います。③今回の五感塾のことを周りの仲間たちに出来るだけ体験を含めて話し、みんなとそれについて話をする。
- ◆まずは職場の人々(上司、同僚、部下、そして関係者各位)に**感謝**したいと思います。そして、身の回りの**掃除**したいと思います。環境を良くすることが、その人々の心をも清浄にしていくことは今回の五感塾で実感したことです。非日常を日常化させてゆきたいです。
- ◆「職場」のいいところ探しをして、見つけたナニカを信頼できる人たちと**語りあう**こと。
※「職場」の部分で、自分、家族、地域(自宅近辺、職場近辺)、会社に変えて実践する。
職場...チームメンバーに発行しているメルマガを「人育て」に関わる人たちに広げる
自分...昔つくったミッション・ステートメント、ソースの輪を更新する
家族...誕生日に相手の「いいところ」に関連した本を贈る
地域(自宅近辺)...いま担っている「組長」の役割を活かして、町内会の行事を積極的にお手伝いして、つながりを太くする

■設問2: 「職場や現場に戻ってやってみたいことは何ですか？」 「それは、いつ、どこで、誰と、どんな風に？」

- ◆最近、我が職場の風土改革活動に正直疲れていた部分がありました。でも、本気でないことはすぐにばれるし、受け手側が身近だと感じられるメッセージの発信をしなければ、誰も振り向かせることはできないことがわかりました。今後は、「徳」「本気・わかりやすく短く・映像化」を意識しながら、地道に気長にはありますが、「我が職場で働けてよかった＝充実感・満足感」と思える組織風土になるための活動を続けていきたいと思っています。(現時点で少なくとも5名ほどの仲間はいるので)
- ◆来期に向けての社員教育を考えていく中で、スキルやナレッジだけでなく、ハートの部分の醸成をしていきたいと強く思うようになった。まだ具体的に何かが出来ているわけではないが、来期計画で今回感じた想いを教育という形で伝えていきたい。
- ◆五感塾で得た新たな経験と気づきを広めるご縁作り。9月29日、弊社大阪本社に〇〇さんと〇〇さんにお越しいただき、弊社人材開発部担当者に対する五感塾の説明、及び今後の開催方法について話し合う。
- ◆事業再編で2010年9月に事業所が神戸に集約されます。社員に神戸という地域につながりを実感でき、神戸を好きになってもらうための交流機会を検討したい。
- ◆地域のボランティアに参加しようと思います。市のボランティアセンターに相談に行こうと思いますが、まだ平日の休みがないので、休みが取れたら行こうと思います。また、伊豆の五感塾に参加したいと思います。
- ◆五感塾は遠くに行くことではない。私たち全員が地域プロデューサーになり得る。町の方、行政、他企業等との「交流」による「人間力・なかま力・志・信頼」の強化につなげます。きっかけは、何か特別新たなものから捻り出すのではなく、職場・家族の日常をライトアップするところに見つかるということを伝え、取り組んでいきます。

おまけ

こんなシーンもありました……



前夜に準備する
お花屋さんと木下さん



会場直前の緊迫したムード



小布施の特産物を対面販売



1日目の交流会の賑わい



小布施町の地域の皆さん(交流会にて)



小西副町長
(落研出身)



???



浄光寺での雑魚寝



和尚の説教



伊那に向かうバスの中

その後の動き・・・



五感塾ネットワーク・フォーラムの参加者3名が、「ヘルスケア五感塾」(仮称)のキックオフ・ミーティングを主催しました。患者会、NPO法人、製薬営業の業界団体、調剤薬局、ドラッグストア、メーカー、流通など、さまざまな立場の方々が参集し、今後の可能性について意見交換しました。
 【2009年9月14日、都内某所にて】